

# 大規模施設における促成イチゴ栽培のIPM体系

## 1 取り上げた理由

イチゴの大規模施設栽培におけるIPM(総合的有害生物管理)体系を開発した。

## 2 普及技術

1)IPM体系の作型は、図1のとおり

	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
栽培状況	親株園		育苗園		本園								
			採苗		定植		開花	採種					
ハダニ類	ミヤコバンカー <sup>®</sup> 設置			ミヤコバンカー <sup>®</sup> 設置(更新)									
ミナジラミ類	気門封鎖剤を主体とした至期防除			(定植前)苗の高濃度炭酸ガス処理 または (育苗期後半)スピロテトラマト水和剤の灌注処理		フノーケープ設置							気門封鎖剤至期
アブラムシ類	至期防除						ネオリカブダニ+ミヤコカブリダニ同時放制						
アザミウマ類	至期防除						コロマンアブラハチ放制						
うどんこ病	至期防除		UV-B照射		UV-B照射								
炭そ病	至期防除(10日間隔程度)及び罹病株の即時剪定												
灰色かび病									ボトキアザミ投入				
萎黄病				本圃増地消毒(農薬、太陽熱)									罹病株有知の確認 一次作の対策

図1 促成イチゴ栽培におけるIPM体系

### 2)病害虫の本ほへの持ち込み回避

育苗ほからの病害虫の持ち込みを回避するためには、高濃度炭酸ガス処理やスピロテトラマト水和剤の定植苗灌注処理、ミヤコバンカーの利用、UV-B電球型蛍光灯の育苗ほ照射などが有効である。

### 3)本ほにおける防除

病害虫の発生状況に応じて図1に示した生物農薬を導入し、必要に応じ天敵への影響も考慮して農薬の散布を行う。

### 4)IPM体系例

本ほへの病害虫の持ち込みを抑制し、複数の技術を導入することで長期にわたり病害虫の発生を抑制できる。また、病害虫防除に係る作業軽減及び薬剤費節減に繋がる。



## 大規模施設における促成イチゴ栽培のIPM体系

## 3 利活用の留意点

- 1) 高濃度炭酸ガス処理は、処理時間(24時間)中の装置内温度を20℃以上、平均25℃に保つよう温度管理に注意する。加温ヒータ付きの装置も販売されている。
- 2) スピロテトラマト水和剤(商品名:モベントフロアブル)は、定植苗に500倍液を灌注処理することで、ハダニ類やアブラムシ類、コナジラミ類、アザミウマ類に高い効果を示す。
- 3) ミヤコバンカーは、育苗期に設置することで苗にミヤコカブリダニを分散定着させるとともにハダニ類の本ぼへの持ち込みを軽減する。
- 4) UV-B電球型蛍光灯は、夜間23時から翌2時の3時間照射で高い効果を示し、10a当たりの設置費用は、約60万円である。図2
- 5) イチゴで使用できる気門封鎖型薬剤については、最新の情報を確認すること。また、この薬剤は、対象害虫に薬剤がかからないと効果を発揮できないので、植物体全体にムラなく散布すること。
- 6) 開花期のミヤコカブリダニ及びチリカブリダニの同時放飼で使用できる製剤は、表1、2のとおりである。図3

表1 イチゴで使用できるミヤコカブリダニ製剤(平成30年1月10日現在)

商品名	使用量(/10a)	規格	備考
スパイカルEX	100~300ml (2,000~6,000頭)	100mlボトル(2,000頭入り)	野菜類での登録。
		250mlボトル(5,000頭入り)	
ミヤコトップ	2,000~6,000頭	250mlボトル (2,000頭入り)	野菜類(施設栽培)での登録。
ミヤコスター	2,000~6,000頭	300mlボトル (2,000頭入り)	いちご(施設栽培)での登録。

表2 イチゴで使用できるチリカブリダニ製剤(平成30年1月10日現在)

商品名	使用量(/10a)	規格	備考
スパイデックス	100~300ml (2,000~6,000頭)	100mlボトル (2,000頭入り)	野菜類(施設栽培)での登録。
チリトップ	6,000頭	500mlボトル (2,000頭入り)	野菜類(施設栽培)での登録。
チリガブリ	4,000~6,000頭	30mlボトル (2,000頭入り)	野菜類(施設栽培)での登録。
チリカ・ワーカー	100~300ml (2,000~6,000頭)	100mlボトル (2,000頭入り)	野菜類(施設栽培)での登録。

- 7) コレマンアブラバチ製剤は、表3、ククメリスカブリダニ剤は、表4のとおりである。

表3 イチゴで使用できるコレマンアブラバチ製剤(平成30年1月10日現在)

商品名	使用量(/10a)	規格	備考
アファイパール	1~2ボトル (500~1,000頭)	100mlボトル(500頭入り)	野菜類(施設栽培)での登録。
コレトップ	4~8ボトル (1,000~2,000頭)	100mlボトル (250頭入り)	野菜類(施設栽培)での登録。

表4 イチゴで使用できるククメリスカブリダニ製剤(平成30年1月10日現在)

商品名	使用量	規格	備考
ククミス	50~100頭/株	100gボトル (50,000頭入り)	野菜類(施設栽培)での登録。
メイトップ	100頭/株	900mlボトル (50,000頭入り)	野菜類(施設栽培)での登録。



図2 UV-B照射による病害抵抗性の誘導



図3 天敵利用によるハダニの防除

